

2024 大暑良し退院明けの我が家かな 7月22日 6組 瀬戸章嗣

今日は、35度の酷暑ですが、83歳で大学病院での、検査・手術・リハビリの4週間入院から、昨日の朝自宅へ帰って、久しぶりの居心地の良さを味わっていきまして、入院もこれから100歳、更にはその先までを楽しく生きていけそうな気分させてくれた、機会だったと思うので、報告してみたいと思います。

20年来の気管支拡張症対応で、月1回の医者通いでの定期診断と投薬だけで、日常生活には支障なく生きていたのですが、今年のCT検査で初めて、<胸水>という、肺を覆う膜の間に水が溜まっている事がわかり、これの原因検査で大学病院への紹介状を貰い、2回ほど外来検査を受けていた矢先、急な高熱に襲われ、39度から40度が出たので、緊急入院して、内科2週間、外科2週間の入院中に、胸水と見えていたものが、<膿胸>という細菌性の膿と分かり、間質性急性肺炎と膿胸診断の下で膿胸を取り除く外科手術を受け、リハビリを経て、順調に回復して退院することができました。

膿胸の細菌チェックでは、結核・コロナ他、問題と考えられる菌は見つからず、高熱が下がった後には、問題となる症状は、一時、大腰筋が驚くほど急激に、極端に衰えて、脚が上がらなくなり、自分での排尿もできなくなりましたが、その他には、特別の症状がなく、連日のような、採血検査とレントゲン検査による経過観察と、リハビリによって、自力生活が可能になり、退院するという経過を辿ったもので、あとは、2週間後に外来診察を受ける予定になっているものです。

そして、今回、面白く思っているのが、11階と8階の4人部屋生活も良い経験になりましたが、談話室からの視角150度の広々した外景色眺めや、1周100メートルの廊下歩きによる歩行訓練などが、リハビリ師の指導付きで楽しめたことで、談話室や、病室でのリハビリ師による指導が、人生とりあえずの100歳達成計画にとって、真に有益な学習になったと思えて、新しい人生を始める気持ちになったことで、今まで、口回りや顎に生やして、楽しんで来た髭をこれを機会にと剃って、退院したことです。

子供や孫達にも、これからは、これまで忘れがちになっていた <遊び心> を取り戻し、楽しんでいく積りだと伝えたところです。

以上。